

第9回 南三陸町震災復興計画推進会議

と き 平成26年6月16日(月)

18:00~20:00

ところ 南三陸町志津川保健センター

2階大会議室

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 会 議

(1) 平成25年度提言・要望の進捗状況(仮設運動広場の報告)

(2) 町の住まい・暮らしに関する話し合いと発表

(3) とりまとめ

4 閉 会

(資料)

- ・資料1 第8回復興計画推進会議結果のまとめ
- ・資料2 第9回復興計画推進会議のテーマと進め方

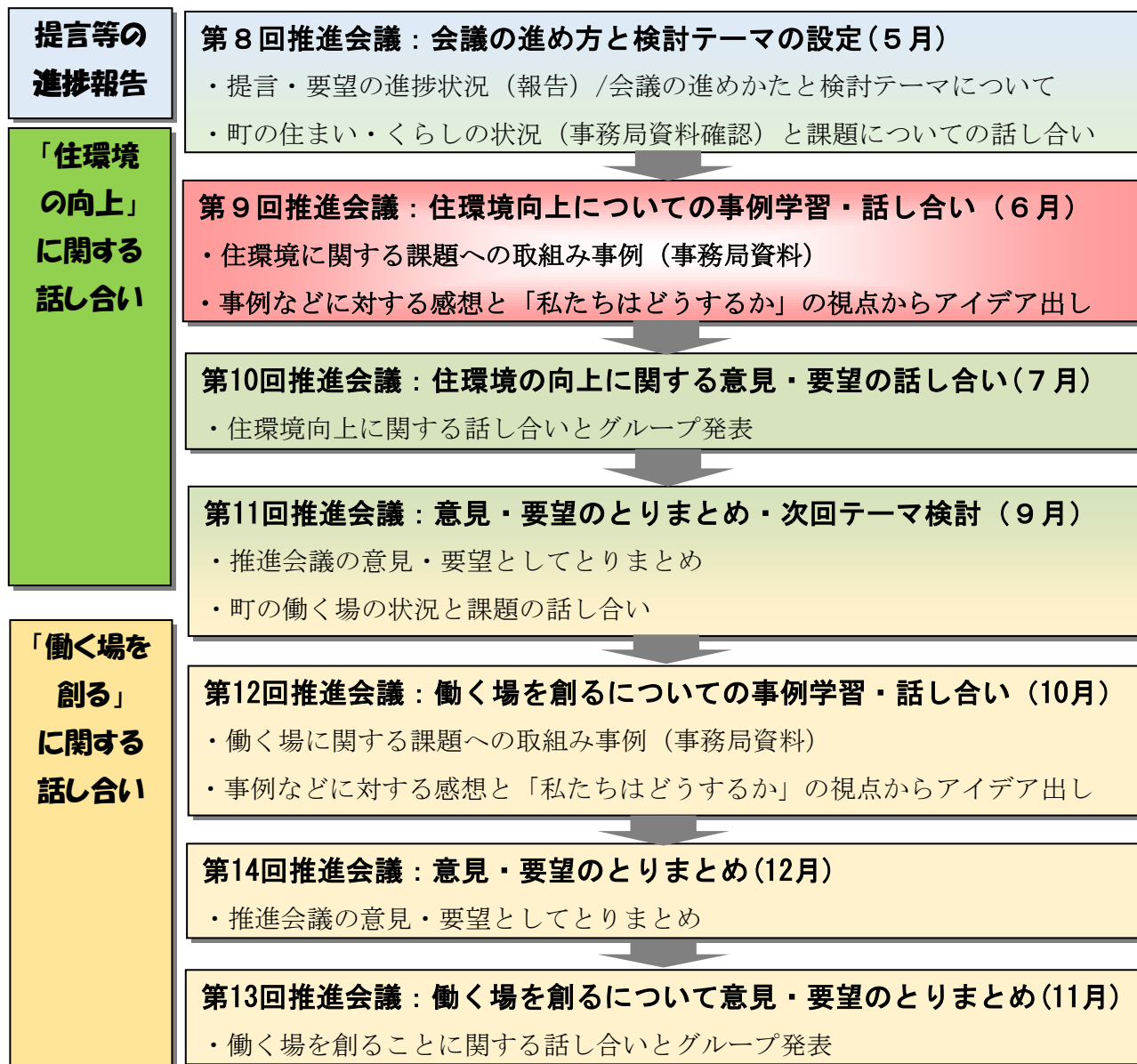
第10回 復興計画推進会議の予定:

平成26年 月 日() 18:00~20:00

平成26年度の復興計画推進会議のテーマと進め方

1. 第9回推進会議の進め方

(1) 第9回会議の検討項目案



(2) 第9回会議の検討テーマ

これから、多くの人が高台に住むこととなりますが、勤務先や通学先、買い物（最寄品や買回り品）や生活サービス（理容・美容やクリーニング、金融機関からの現金の引き出し等）、通院先などは、住まいとは別の場所になります。

このことを前提に、**高台団地・住宅に住むときの「暮らし」の課題について考え、快適な暮らしを送るための「アイデア」を出して行きたいと思います。**

また、参考事例として、「団地に住んで快適に暮らす」ことを目的とした取り組みなどをご紹介します。

① 高台団地・住宅に住むときの「暮らし」の課題についての話し合い

② 「団地に住んで快適に暮らす」ための参考事例

「団地に住んで快適に暮らす」ことを目的とした住民主体の取り組みをご紹介します。

参考1：住民相互で通院や買い物の送迎を実施（600円/時間で気兼ねなく実施）

（石巻市牡鹿地区の住民互助組織「寄らいん牡鹿」）

★石巻市牡鹿地区の住民互助組織

牡鹿半島の住民が会員となり、通院や買い物への付き添いがほしい人と、自動車の運転ができるなど特技や経験を生かせる人の助け合いを事務局が仲介する。1時間600円程度の有償にすることで相手の都合などに気兼ねなく利用してもらうことにしている。

★互助組織立上げのねらい

会長の石森さんは津波で自宅を流され、仮設住宅に住む中で、住民のつながりが希薄になったと感じていた。「狭い仮設には友人を呼べないという人が多い。家が残った人と仮設に住む人で、気を遣い合って溝ができたように感じる」と話す。助け合いが当たり前に行われていた地域の絆を取り戻すのが、寄らいん牡鹿の狙いだ。

★震災と妻の病気がきっかけ

石森さんは小湊浜に生まれ、定年まで旧牡鹿町役場に務めた。地元を離れて暮らしたことはない。誰かも告げずにカキやワカメ、捕れたばかりの魚を玄関先に置いていってくれる浜が好きで、「ここで生まれ、死んでいくんだろうなと思ってきた」。だが震災と、妻の静江さん（64）の腎臓の病気で生活が一変した。

★人工透析をするため、中心部の災害公営住宅に入居

静江さんは2012年1月から人工透析が必要になり、週3回は市中心部の医療機関への通院が欠かせない。石森さんが片道約1時間の車の運転を引き受けているが、70歳を過ぎ、「この生活はいつまでも続けられない」と思うようになった。行政区長ながら、地元での高台移転ではなく、通院に便利な市中心部の災害公営住宅への入居を申し込んだ。「本音は離れたくないんだが……」。断腸の思いだった。

★地域への思い

だからこそ「牡鹿半島のためになることができれば」と約1年半考え続けてきた結果が、寄らいん牡鹿だ。生まれ育った地域への恩返し。たとえ離れることになっても、その気持ちは変わらない。

（資料：読売新聞：平成26年4月18日）

参考2：子どもたちやお母さんたちが「団地のリビング」や「お店」を開設

(埼玉県北本団地)

★空き店舗前に住民が「リビングルーム」を開設

埼玉県北本団地では2010年から「リビングルーム」というプロジェクトが行われています。これは、商店街の空き店舗を舞台に、地域の中に新たな出会いと活動を生み出す場としての「居間」をつくっていく試みです。

★地域活動の拠点となる「リビングルーム」

始めに住民の方々から家具や生活用品を譲り受け、それらを空き店舗に配置していくことで誰もが出入りできる「居間」をつくり上げます。さらに、そこで自由に物々交換をして良い仕組みを取り入れ、「居間」の内装は常に変化します。現在は、人が集い、住民誰もが自発的にさまざまな地域活動を企画できる拠点として活用されています。

★住民手作りのイベント「アットホームデパート」

この「リビングルーム」という場から、そこに集まる子どもたちやお母さんたちが中心となって「アットホームデパート」をイベントとして立ち上げました。



★「アットホームデパート」の3つの特徴

- 市民オーナーとしてだれでもお店をつくって店主になれること。
- 商店街にある空き店舗を使ってその中にお店が並ぶこと。
- 工夫して手づくりのお店をつくること。

★「アットホームデパート」の開店

「アットホームデパート」は、一日限定開催です。今回は、空き店舗が区画毎に7つの「フロア（雑貨フロアやモノ作り体験、ゲームコーナー）」に分けられ、その中に13のお店が出店しました。

午前11時、「アットホームデパート、スタート！」のアナウンスですべてのお店が開店。団地自治会の餅つき大会や、商店会の大売り出しと時期を重ねて行われたこともあり、開始早々から大いに賑わいました。

★賑わいの状況

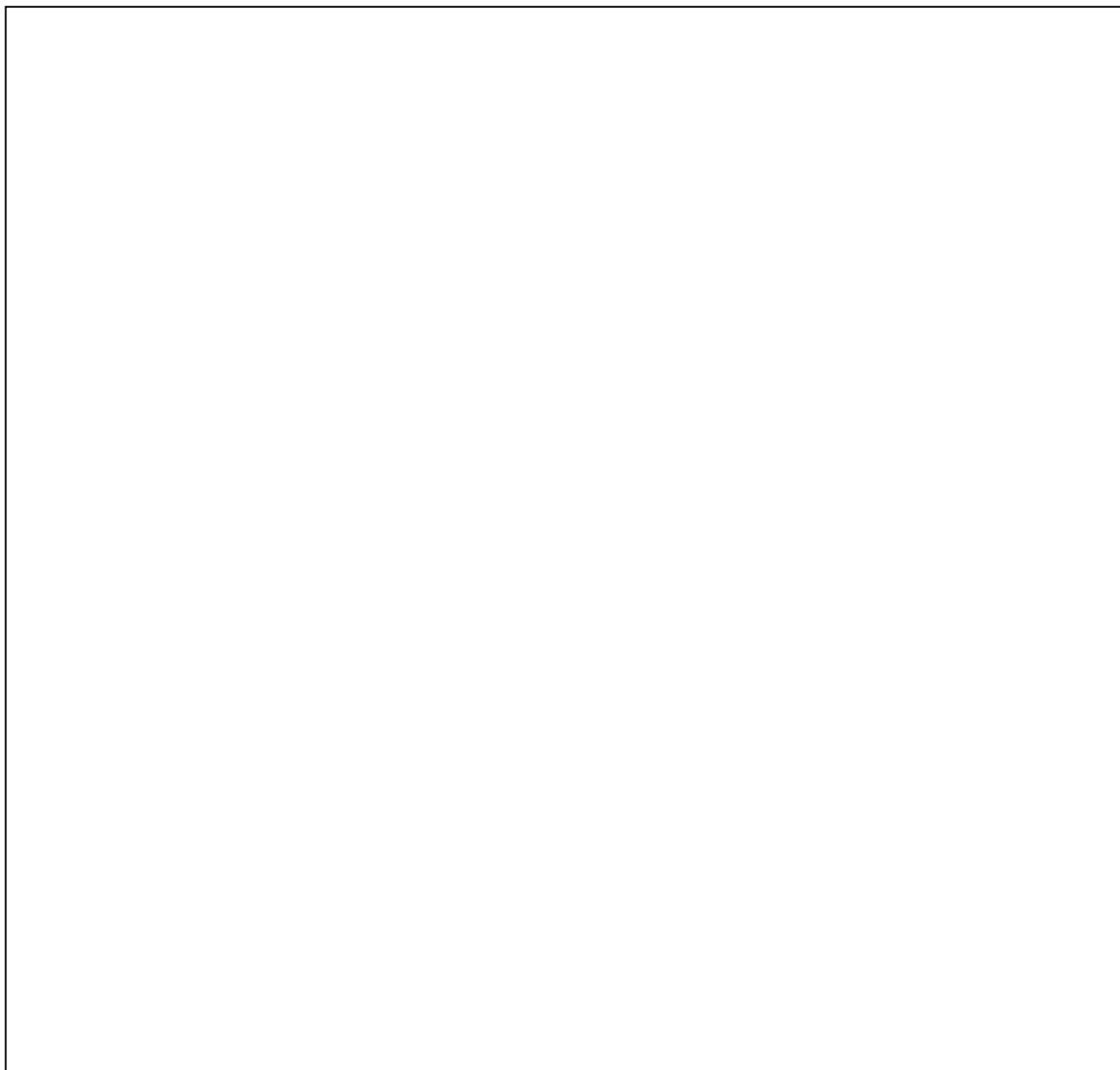
親子連れのお客さんが午前中からたくさん出入りしていました。同世代の人たちがお店をしているから何だか買いたくなる。普段商店街で見ない若い層が、一日だけのお店に足を踏み入れて目を輝かせていました。



出典：団地R不動産ホームページ

③ 快適な暮らしを送るための「アイデア」についての話し合い

課題を踏まえ、「高台に住んで快適に暮らす」アイデアについて話し合いをします。

A large empty rectangular box with a thin black border, intended for a discussion or meeting. It occupies the central portion of the page below the introductory text.